

第12回川づくりフォーラム 満員御礼!

～生き物と暮らしと未来のこどもたち～

3月1日、エルセンターにて「第12回川づくりフォーラム」を開催しました。今年は「こなん水環境フォーラム」とのコラボにより、野洲、草津、栗東からも参加があり、160名を超える盛会となりました。



旗揚げでアンケートに答える参加者

基調講演は、嘉田由紀子前滋賀県知事から「学者40年、知事8年」の個人史も交えて、お話いただきました。環境保全には、熱いハートをもつ行動力と、客観的・科学的で冷静な頭脳とのバランスが大切ということで、豊稔の郷の活動を進める上でも参考になるお話でした。後半は、吉身小学校のビオトープや、勝部自治会による多彩な活動の様子、また、滋賀銀行の環境CSR活動の発表を聴くことができました。さらに、会場には30団体の展示パネルが並び、参加者が見た感想や疑問を用紙に書いて貼り付ける「ラブレター」という仕組みで、積極的にやりとりされていました。最後は、漁師料理を囲んで活発に交流することができました。

水辺の楽校春編

たのしく勉強したよ!

やわらかな春の日差しに恵まれた3月22日(日)、目田川河川公園で“参加者体験型プログラム”を目標とした【水辺の楽校(春編)】を開催しました。

参加者全員が協力してのゴミ拾いでは、集められたたくさんのゴミにびっくり!そしてたった一ヶ月でこれだけのゴミが集まるということを知って2度びっくり!!環境保全に対するひとりひとりの心がけが大切だということを改めて感じてもらったのではないのでしょうか。「早春の水辺からのおくりもの」と題した春さがしビンゴゲームでは、お目当ての野草などが見つかった親子やビンゴを完成させた子どもたちから歓声が!

大いに盛り上がったあと、子どもたちの手でホタルの幼虫放流を行ないました。最後はお待ちかねのランチタイム、お父さんはスタッフと一緒に餅を焼くために火おこし。そして、可愛い参加者たちは慣れない手つきながらも一生懸命、お豆腐やネギを切ってくれました。みんなの思いがいっぱい詰まった田舎汁、美味しかったなあ…。

あちこちでたくさんの笑顔が見られた今回の水辺の楽校。最近子どもだけが参加するイベントも多くなってきたけれど、親子でお日様の下で過ごす一日もいいものだなと思いました。



親子で野草さがし

ほたるの森のなかまたち

ゲンジボタルの幼虫はカワニナを好んで食べますが、ではカワニナは何を食べているのでしょうか。基本的に岩についたケイソウを食していると考えられますが、雑食でいろいろなものを食べます。列記すると、昆虫やザリガニなどの死骸、イトミミズ、木片、紙類、残飯、アケビの実、クレソン、カワニナの肉、牛肉、市販の魚のエサ、麺類、穀類、果実などです。むしろ飼育して食べないものを見つけるのが基礎研究といった具合です。

写真はほたるの川で死んだ魚に群がるカワニナです。このように川の掃除屋さんでもあります。



滋賀 CSR 経営大賞特別賞 受賞しました!

この度当法人は、自治会、企業、学生と協働で実施する「オオバナミズキンバイ除去プロジェクト」と毎年多くの観覧者が守山を訪れる、環境と経済・観光を結びつけた「守山ほたるパーク&ウォーク」の取組みに対して、滋賀CSR経営大賞実行委員会(事務局:滋賀経済同友会)より滋賀CSR経営大賞特別賞を受賞しました。これも、当法人を支えて下さった、会員、守山ほたるサポーターの皆さまのおかげです。表彰式は3月24日(火)に天津プリンスホテルにて開催され、長尾理事長と、沢井副理事長が臨みました。



滋賀 CSR 経営大賞実行委員会吉田代表幹事より受賞

勝部(かつべ)自治会

『まち中を流れる川・水路 悠久の歴史と共に!』

勝部自治会は、市内では2番目の人口4521人、世帯数1902戸を有する大規模自治会で、JR守山駅前の便利な市街化区域の真ん中に位置するにもかかわらず、まち中を小河川や水路が縦横に走り、水辺の空間が網目のように巡っています。

子どもたちは、魚を追いかけたりチョウや青虫を見ついたり泥団子づくりをしたり草木で遊んだり、一昔前の田園風景が、今も少し形を変えて残っています。

勝部には、毎年1月に行われている勝部神社の火まつりがあり、自治会内の川や水路の流れと共に、800年の歴史を今に伝えています。

自治会内の川の流れとせせらぎが悠久の歴史と共に人々の生活に潤いと安らぎを与えてくれています。

当自治会はこの水辺の空間を生かし、生活・親水・防災そして伝統をつなぐため一年を通じて多くの自治会員が川に関わるいろいろな活動に取り組んでいます。



勇壮な勝部の火まつり